

【説明会終了後にいただいたご質問と回答】

項番	ご 質 問	回 答	備考
1	説明会でのご説明の中で、子供達の教育には「一定以上の規模」が必要だとの話がございました。それは小人数だと大人数でないと体験出来ない機会の損失があり、その機会損失により子供の人間形成においてデメリットがあるということかと思います。その部分を具体的な数字を持って、見える資料を作って欲しいとの意見をお伝えさせて頂きました。 しかしながら、その質問の後に沈黙が流れたため、その時の皆様の反応から「教育は数値化出来ない」もしくは「教育は数値で語るべきものではない」との共通認識を持っておられる気がした為、是非ご一読頂きたい本がありまして、ご連絡致しました。 実は学校のテスト以外でも数値化出来る教育に関するものがございますので、ご紹介致します。中室 牧子著 『「学力」の経済学』の第4章「少人数学級」には効果があるのか？エビデンスなき日本の教育政策」に答えがあります。もし、読まれたことが無ければ、一度皆様に読んで可能であればご感想を頂ければ幸いです。 もちろん、全てこの本が正しいというつもりはありませんが、「教育を数値で語る」という視点から、新しい発想や意見が出て、より良い大正区になればと思っております。	本市が取り組んでいる「学校の適正配置」については、「少人数学級」を否定するものではなく、「小規模の学年すなわち単学級」を解消するための取組であることをご理解いただけたらと考えています。 書籍にかかる情報提供ありがとうございました。同書では、「少人数学級」といじめ・不登校や学力、生涯賃金などの相関関係が書かれており、教育施策において、この本に書かれている「数値で語る」という視点を持ちながら取組を進めていくことも大切と感じた次第です。	8月31日 掲載
2	色んな理由で小林小学校がよくて小林小学校に決めたご家庭もあると思うのですが、人数だけで統廃合と言うのであれば、何の為の学校選択制なのでしょう？	学校選択制により小林小学校を選択されたご家庭もあると承知していますが、小林小学校と平尾小学校において今後も小規模化の進行が見込まれることから、子どもたちにとって一定の集団規模を確保し、教育活動の充実を図っていくため、条例にもとづいて適正配置の取組を進めていく必要があると考えています。	8月31日 掲載
3	平尾と小林の学校の大きさを比較すると断然小林小の方が広いので、今後更に適正化を図るなら小林小を残すべきだと思います。校舎を増やしても土地は増やさない事もあります。また子どもたちの中には支援がいる子どももいますのでそういう教室も必要かと思います。 学校選択制が10月末には締め切りかと思いますが12月にどちらの学校になるのが決まるのですか、それとも平尾で決定になっているのですか？ 経費削減を考えるのではなく本当に子どもの事を考えるなら大きい場所でのびのびと教育できる環境を作っていただきたく願います。	現時点において、平尾小学校に統合することについて決定していませんが、7月16日と19日に開催した説明会の場で、適正配置の基本的な考え方は、「大阪市立小学校学校配置の適正化の推進のための指針」において、「原則として、適正配置対象校同士の統合では、児童数の多い学校の校舎を使用し、学校用地の状況も考慮する。」とされていることや、施設面で比較した場合、小林小学校の方が校地面積が広いものの、平尾小学校の校舎の方が新しいことから、平尾小学校に統合する案をお示しています。 この考えを基本に検討を進め、12月頃に説明会を開催のうえ、学校再編整備計画案をご提示させていただく予定としております。 また、統合により必要とされる教室数については、特別支援教室を含め、教室改造等の工事を行ったうえで確保してまいります。 さらに、統合による効果として、財政効果インセンティブ制度を活用し、教育環境等の充実を図ってまいります。	8月31日 掲載

4	・再編インセンティブ予算で、人件費で5,000万円の効果額ということですが、統廃合で浮く人件費はもっと多額ではないでしょうか。また、5,000万円を10年間というのは、毎年5,000万円×10年ですか？それとも10年間で5,000万円ということですか？ ・説明会で渡されたパンフレットに、令和3・4年に統合後に実施したアンケート結果が出ていますが、このアンケートはどのような形式で行われたのでしょうか。自由記述でしょうか？それとも、あらかじめ文章が書かれていて、それに対してはい・いいえで答えるような形式でしょうか？例えば「いろいろな先生に教えてもらえるので良かった」と5割の児童が回答した、とありますが、5割もの児童が、このような自由記述をするとは到底考えられません。アンケートというのは、その問かけ方によって、アンケート制作者が思うような方向に誘導することが可能です。アンケートでこうだったから・・・と簡単に結論づけるのは、よくないと思います。（「今まで先生がよく話を聞いてくれたが、今はクラスの人数が増えてあまり話を聞いてもらえなくなったのがいやだ」というような設問はあったのでしょうか。） ・学校統廃合は、いくら考えても承服できません。小林小学校は現在120人ぐらい在籍しているので、けっして少人数だとは思いません。少人数のメリットをもっと生かす工夫をして、よりよい教育環境をつくってアピールすれば、入学者数も増えていくのではないのでしょうか。一方、少人数のデメリットは2校での合同授業など、工夫はできるかと思います。それよりも、地域から学校がなくなることのデメリットの大きさを考えるべきです。地域から子どもの姿が見えなくなると、町は廃れていきます。高齢者にとって子どもの姿を見ることは、大変嬉しいことです。地域の登下校見守りの人達は、それが生きがいにもなっています。見守りの多くは高齢者です。高齢者の生きがいを奪うことになりかねません。 また、小林小学校で行われている生涯学習ルーム講座はどうなるのでしょうか。廃校と同時にこれもなくなるのであれば、地域住民の楽しみも奪うことになってしまいます。平尾小学校の生涯学習ルームに通えば良い、と言われても、遠くて通えない高齢者もいます。小林小学校と平尾小学校で全く同じ生涯学習が行われているわけでもありません。 また、災害時の避難所としての小学校がなくなることにも心配です。 小林地域が人の住まない・住みにくい地域になってしまいます。町づくりにとりくんでいる、と言われますが、学校がない地域には若い人達は住みません。簡単に学校をなくしてしまうのではなく、小学校を地域に残した上で、町の活性化にしっかり取り組むことが行政のとるべき姿ではないでしょうか。	・財政効果インセンティブ制度を活用した予算については、2校を1校に統合した場合、一般的に人件費で年間約5,000万円の効果額があると試算しています。この金額×10年間の範囲内で学校教育環境の充実等に充てることができるもので、統合前に前倒しで充てることも可能です。 ・令和3・4年に実施した統合後のアンケートは、設問に対して選択肢を設けて回答していただく形式で行いました。 ご質問の中にあつた設問と選択肢および回答結果を例にあげますと、 質問：今の小学校についてどう思いますか。（複数回答可） 《先生の人数が増えたことについて》 1.たくさんの先生と話ができるのでよかった（38.6%） 2.いろいろな先生に教えてもらえるのでよかった（45.4%） 3.先生とあまり話ができなくなった（6.3%） 4.先生の名前を覚えるのが大変になった（27.4%） 5.今までと変わらない（24.5%） 6.その他（2.0%） と、プラスとマイナスの選択肢を設けて質問しています。 ・小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。 必ずしも少人数による授業や教育活動を否定するものではありませんが、全学年単学級の状況にある小規模校においては、クラス替えができずに人間関係が固定化することや、学校行事等の教育活動にも課題が生じる状況となります。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。 ・高齢者を含む地域の方々による登下校の見守りは、子どもたちの安全・安心の確保のため非常に有難い取組であり、登校先が変更になっても引き続き協力いただきたいと考えております。 ・学校が統合される場合、生涯学習ルーム事業は原則として統合後の学校で実施します。また、運営委員会も校区で一つの組織に統合していただくこととなります。ただし、（仮称）跡地活用検討委員会の議論を通じて、地域全体のコミュニティに資する活動拠点等の機能を継続する必要があると認められる場合は、跡地の校舎において継続して利用することも可能です。 ・小林小学校が災害時避難所となっていることについては認識していますが、地域の避難所をどう考えるかは、想定避難者数を収容できる避難所を地域の中でどのように確保していくのかという観点で検討することになります。 ・大正区では、にぎわいと魅力あふれるまち「大正」をめざし、「エリア価値向上事業」を実施しているところ です。その成果もあって、大正駅周辺はもとより、他の地域にも区内外の方々がカフェや雑貨店などを新たに开店されるようになってきており、まちが変わる「兆し」が現れています。今後も引き続き、地域の魅力向上に取り組み、新たなにぎわいと活力を呼び込めるよう努めてまいります。	9月30日 掲載
---	---	--	---------------------

5	小林小学校がなくなったら、選挙の投票所でもなくなる、ということでしょうか。足の不自由な人は、遠くの平尾小学校まで行くことができません。 小林地域の住民の選挙権の保障は、どう考えておられるのでしょうか。	投票所機能については、これまで小林小学校が投票所として活用されていることから、引き続き確保が必要であることは理解しています。 具体的な場所については、区選管とも協議しながら、「（仮称）跡地活用検討委員会」の議論も含め、地域の皆さまと検討を進めてまいります。	10月31日 掲載
6	平尾小学校に子どもを通わせているものです。うわさで聞いたのですが、小林小学校が来年度から受け入れをしなくなるって聞きました。本当ですか？ 私は、平尾小学校も小林小学校も無くしてほしくないです。確かに子どもの数は減ってきています。だからといって、単純に減らしていいとは思えません。近くに幼稚園も学校も無いとなると余計にファミリー層は住みにくくなりますし、学校までの道のりが長いと子どもだけで登校させることに不安を感じます。放課後、遊びに行かせることも考えてしまいます。大正区の人口が益々減ってしまいます。共働きが多い今、子どもだけでも安全に通える位置に学校があるのが望ましいです。平尾小学校でも学級崩壊、学年崩壊と保護者からの不安の声をよくききます。そんな中、更に学級、学年の数が増えて悪くなってもよくなるとは絶対思えません。大正区は学力も低いとききます。小規模学校の方が学力向上も期待できるように思います。子ども達の為に統合した方がいいと思いますが、少人数の方が先生の目も届きますし、子ども達の声もよく聞けると思います。塾は少人数、個別がよいというのに、学校は大規模の方がいいという考えはおかしいです。子ども達、先生の為に学校の統合はやめてください。もっと教育に子ども達の為に税金を使ってください。よろしくお願いします。	7月に開催した住民説明会において、小林小学校を平尾小学校に統合する案をお示していますが、学校再編の前年度までは、現在の就学指定先に変更はありません。したがって、小林小学校の新入生は学校再編の前年度まで受け入れてまいります。 通学距離については、本市では再編後の小学校は原則2 kmまでと定められており、当該校の再編後の校区全域も2 km圏内となる予定です。 通学路の安全対策については、児童が安全・安心に登下校できるよう、再編整備計画策定後に検討会議を立ち上げ、地域、保護者の方のご意見をお聞きしながら、警察や道路管理者である建設局、区役所、教育委員会とで対応を検討します。 小規模校においても良い面はあると認識していますが、全学年単学級の状況にある小規模校においては、クラス替えができずに人間関係が固定化することや、学校行事等の教育活動にも課題が生じる状況となります。また、教員数が少なくなるため、教員同士で学年共通の指導方法の高め合いができない等の課題もあります。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。	10月31日 掲載
7	10/20(日)19:00～テレビ朝日で放送された「ナニコレ珍百景」で、福井市の在校生が1人しかいない小学校が紹介されていました。地域には去年まで中学生を含めて8人の在校生がいたのが中学校の閉校にともない、小学校も閉校となって小学生も隣町への転校となったそうです。けれども、テレビで紹介された小学生は、祖父や父が見つないできた学校を少しでも長く続けたい、と学校に残ることを決めたそうです。そのたった1人の小学生の思いに応えている行政の姿勢に大変感銘を受けました。この学校には、校長先生と担任の先生がいて、もちろん給食もあります。ひるがえって、大阪市の姿勢はどうなのか。小規模校だから統合、とあまりにも短絡的すぎるのではないですか。子ども基本法が制定された今、一人ひとりの子どもの思いを聞こうとせずにいる大阪市と、たった1人の子どもの思いにも誠実に応えている福井市の姿を比べ、同じ自治体としてどうしてこうも違ってくるのか？ 統廃合ありきで話を進めるのではなく、まずは、小林小学校と平尾小学校両校の子どもたち一人ひとりの思いをしっかりと聞き取ってください。私は、「一緒に学校になるのはいいや」との声を両校どちらの子どもたちからも多く聞いています。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。 必ずしも少人数による授業や教育活動を否定するものではありませんが、全学年単学級の状況にある小規模校においては、クラス替えができずに人間関係が固定化することや、学校行事等の教育活動にも課題が生じる状況となります。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。 学校再編によって児童の教育環境に影響を及ぼさないよう、統合前に学校間で交流する機会を設けるなど、円滑な統合にむけての準備を行ってまいります。	10月31日 掲載

8	小林東に居住してます。自分の子育ての頃は、子どもの声がうるさかったですが、今となっては寂しい子供の声が聞こえなくなるのは町がさびれるのと同じ。子供が少なくなって、小学校を統合するのは父兄も不安大です。田舎と違い都会ですが、距離がしれているといっても子供には遠くなるのは負担です。教育を受ける者にとって、近くの小学校がなくなることが、理解できるでしょうか？やがて、大きな地震がきて、避難する場所が小学校がないとなると、老人は不安大です。私の子供時代20分くらいかけて小学校に行っていました。冬は寒く、夏はとっても暑くて、しんどい思いをしました。近くの小学校がなくなると、今子供達にこんな思いをさせるのと思うとつらいです。小林小学校をなくさないで下さい。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。通学距離については、本市では再編後の小学校は原則2 kmまでと定められており、当該校の再編後の校区全域も2 km圏内となる予定です。学校再編後の地域の避難所については、想定避難者数を収容できる避難所を地域の中でどのように確保していくのかという観点で検討することになります。	12月1日 掲載
9	小林にすんでいます。小学校がなくなるかも知れない。街に子どもの姿がみえる（あたり前の）がなくなる反対です。地域が活気がなくなります。1クラスだといけません。大阪市のほとんど1クラス定員数多すぎます。10人、15人、20人学級でよく目が届く、いいじゃありませんか。近所の子どもに聞くと、このまま小林小学校にいたい。大正区は駅に近く、43号線より北はマンションがいっぱい建ち、人口ふえてます。43号線より南はあまりマンションなく又地下鉄計画（つくる予定がダメになり）もなく交通不便かもしれません。街づくりは大阪市の仕事。人口ふえるよう考えて下さい。子どもの声、先生の声、地域の声を聞いてください。		
10	小林校区に約50年住んでいる住民です。近くには昭和山公園があり、今建設されて入居が待たれている高層住宅、めぐみ保育園もあり、子どもたちも行き交う町、それが突然小学校がなくなるって！おどろきです。広い運動場が自慢の学校、ただ人数が減少しているだけで…デメリットばかりおききますが、この今が少人数学級にするチャンスではありませんか。35人の学年は少しありますが、市全体は40人学級がほとんどです。あまりにも時代おくれではないでしょうか。大正区だけではないですから府、市の大きな壁があるのは承知しています。9月の敬老の日の案内が入りましたが、欠席すると後日、小学1年生の子どもの手紙が入っていました。「長生きしてください。ぼくはサッカーを頑張っています。」とあり、胸があつくなり返事を学校のポストに入れました。こんな交流ができるのも校区に学校があるからです。先生たちも遅くまで仕事をされている様子が伺えます。人口減少は交通の便もよくしないと（地下鉄鶴町まで）高齢者も含めていつまでも住みやすい町にしていきたいと汗かいて頑張りますのでどうかよろしくお願いします。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市議会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。必ずしも少人数による授業や教育活動を否定するものではありませんが、全学年単学級の状況にある小規模校においては、クラス替えができずに人間関係が固定化することや、学校行事等の教育活動にも課題が生じる状況となります。本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。	12月1日 掲載
11	平尾小学校卒業生より 平尾小学校が小林小学校といっしょになって学校が大きく変わってしまうのは、卒業生として寂しく思います。小林小学校に今通っている子は、学校が遠くなってしまうと通学するのも大変になると思います。通学するときには、地域の方々がいつも見守ってくださっているとはいえ、事故などの危険な目にあう可能性も高くなってしまいます。それに、大きく環境が変わってしまうと、不安になったり、学校が嫌になったり、勉強に集中できなくなる子もいるかもしれません。小林小学校に通っていた友達からも「なくなるのは嫌やな～」とよく聞きます。平尾、小林に住む小学生がのびのびと育っていけるようにするためにも、小学校は合併せずにそのまま残してほしいです。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。通学距離については、本市では再編後の小学校は原則2 kmまでと定められており、当該校の再編後の校区全域も2 km圏内となる予定です。通学路の安全対策については、児童が安全・安心に登下校できるよう、再編整備計画策定後に検討会議を立ち上げ、地域、保護者の方のご意見をお聞きしながら、警察や道路管理者である建設局、区役所、教育委員会とで対応を検討します。学校再編によって児童の教育環境に影響を及ぼさないよう、統合前に学校間で交流する機会を設けるなど、円滑な統合にむけての準備を行ってまいります。	12月1日 掲載

12	小林小学校を統廃合することは反対します。小林小学校の前にめぐみ保育園が新設されています。新しくできる保育園の前の小学校が廃校する、胸が痛くなります。市営住宅、保育園、これから小林小学校に入学したいと思う児童が増えると思っていた時に、統廃合の話を聞きました。平尾、小林の両方の説明会に参加しましたが、納得いく答えはなく、大正区を廃墟の町にしてしまう不安に思いました。大正駅から大正区に入ると、道路の白線は消えている所も多く、道には雑草が生いしげり、ゴミ、すいがらが落ちていて、50年近く住んでいる者としては、さみしくてたまりません。大正区役所にあった時計もなくなり、噴水も復活したものの、以前より簡素になりました。イベントするお金があるなら、まず小学校、中学校の校舎の壁をなおしてほしい。商店街も助けてほしい。子どもたちにまず説明会を開いてから、統廃合の話は地域にする。目先のお金、大人の事情で小学校をなくさないでほしい。過疎地域にするようなことはやめて下さい。大正区の町をこわさないで下さい。子どものいない所はさびれていきます。よろしくお願いします。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市議会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。	12月1日 掲載
13	地域の者です。小林小学校の前の市営住宅が建てかわり、新しくなり、横にめぐみ保育園も大きく新しくなりました。子育てするものには小学校と保育園が横にあり市営住宅もある最高の環境です。なぜ小学校がなくなるのでしょうか？残念で悔しいです。市営住宅も戸数が増えるのですから、若い世代を優先的に入居させてほしいです。 町を活気づけるのは、若い世代と子どもがいる家庭です。イベントをしても、その時だけ少し大正区を訪問しますが、住みたいなあと思えるには、やはり保育園や学校が近くにあることです。大正区で育った私たちの子どもや孫もこちらには帰ってきません。小学校は地域の宝です。子どもたちを地域の人たちが見守り、地域の者も生涯学習の場として小学校を使わせてもらい、災害の時は避難所として若い人も老人も共に助け合う、また防災の用品も保管できます。老人ばかりのさびしい町ではできません。 また、小学校の子どもの通学も平尾まで行くには30分くらいかかる子もいます。重いランドセルで、私も子どもの時、ちがう区ですが通学遠くつらかった思い出があります。小林小学校をなくさないでください！	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。 市営住宅の建替えについては、仮移転している方が戻ってきて入居する予定であり、空室は若干あるものの、新たに子育て世帯が入居されるとは限らず、児童数の大幅増加は見込めない状況です。 また、生涯学習の場については、（仮称）跡地活用検討委員会の議論を通じて、地域全体のコミュニティに資する活動拠点等の機能を継続する必要があると認められる場合は、跡地の校舎において継続して利用することも可能です。 学校再編後の地域の避難所については、想定避難者数を収容できる避難所を地域の中でどのように確保していくのかという観点で検討することになります。 通学距離については、本市では再編後の小学校は原則2 kmまでと定められており、当該校の再編後の校区全域も2 km圏内となる予定です。	12月1日 掲載
14	小林小学校をなくさないで下さい。運動場が広くて、ゆったりした感じが好きです。娘の母校で愛着があります。地域から小学校がなくなるとさみしいです。かんたんになくすことだけはやめて下さい。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。	12月1日 掲載
15	地いから小林小学校が無くなるのは反対です。統廃合反対です。		
16	なぜ万博を使うお金はあるのに学校をつぶすのかが分からない。なぜ学校をつぶす？そもそもゴミの島でなにをしている。政府は増税しているだけの無能。万博は2025にはかんせいできないと思う。万博を作るようがあるなら学校をつぶすな。 小4		
17	学校がなくなったら母校がなくなる。今2年やけど小林小学校でそつぎようしたい。		
18	小学校から子どもの声が聞こえないのは寂しいです。孫も通っていますが、途中で小学校がかわるのは嫌だと言ってます。小林小学校をつぶさないで下さい。お願いします。		
19	うちの孫は小林小学校へ通っていました。その学校の名前が無くなるのは、とても残念で思い出で無くなるな淋しさがあります。どうかどうか子ども達の思い出で無くさないで下さい。		

20	説明会後に寄せられたご質問と回答の項番 7 について 回答を見ましたが、まったく回答になっていません。福井市の事例を知って、大正区として大阪市としてどう思うのかをご回答いただきたい。また子どもの思いを聞き取ってほしいという私の思いへの回答もあわせてお聞きしたい。市の意見ばかりを述べるような回答はいりません。	福井市の事例と本市の状況は大きく異なるため、ご質問にお答えしかねます。 また、ご意見につきましては、子どもたちの気持ちを含め保護者や地域の方々からお伺いしてまいります。	12月1日 掲載
21	説明会終了後にいただいた質問と回答での 4 番について ・統廃合で浮く人件費は5000万円よりも多額ではないか、との質問に対する回答がありませんので、ご回答願います。校長・教頭・養護・栄養・管理作業員・司書・事務・学級担任・他学級担任以外の教諭等多くの職員が、学校統廃合により必要なくなるのですから、人件費は5000万円よりも多額に浮きますし、水道光熱費もぐんと浮いてくるのではないですか？ という根拠で5000万円という数字が出てくるのですか？ ・地域住民がのぞんでの統廃合ではなく、地域が衰退するとの意見のある中で、市が進めようとしている統廃合なのに、高齢者による見守りについてはご協力頂きたい、というのは、あまりに勝手ではないですか？ ・大正区では、賑わいと魅力あふれるまち「大正」をめざし・・・つとめてまいります。との回答は、簡単に学校をなくしてしまうのではなく、小学校を地域に残した上で、町の活性化にしっかり取り組むことが行政のとるべき姿ではないでしょうかとの質問への回答にはなっていません。質問の趣旨に沿った回答をしてください。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。 再編により生み出される効果額（財源）は、統合後の学校の教育環境の充実に向けた資源として活用してまいります。単に教育コストの削減を目的にしているものではありません。現時点では、光熱水費や施設維持管理費などを除いた人件費において、2校を1校に統合する際の標準的な効果額（年間約5,000万円前後）をお示しさせていただいております。 「地域の登下校見守りの人達は、それが生きがいにもなっています。」のご意見がありましたので、ぜひ見守りを継続していただきたいと思います。 通学路の安全対策については、児童が安全・安心に登下校できるよう、再編整備計画策定後に検討会議を立ち上げ、地域、保護者の方のご意見をお聞きしながら、警察や道路管理者である建設局、区役所、教育委員会とで対応を検討します。 既に回答させていただきましたとおり、にぎわいと魅力あふれるまち「大正」をめざし、地域の魅力向上に取り組み、新たなにぎわいと活力を呼び込めるよう努めてまいります。	12月1日 掲載

22	保護者です。説明会にも出席しました。 その中で1学年に2クラス以上ないとクラス替えができず、人間関係が固定して、問題が発生しても解決が難しいとか、先生が1学年に1人となり仕事を分担したり相談しながら学年の運営ができないと繰り返し説明されますが、外国では1クラス20人以下が普通であると聞きます。現在の35人以下学級でもは多すぎだと思います。 今大正区の小学校は1学年1クラスとところも多いと聞きますが、その人数は35人くらいのクラスも多いのです。本当に子どもたちのことを考えたら、思い切ってそのクラスを二つに分けて、2クラスにしたらいかがでしょうか。20人以下なら先生が子どもたちのことをよくみることができると聞いています。そうすれば先生方は相談しなら学年ごとの学びをつくれます、クラス替えもできます。少ない子どもをもっと大切に考えてください。大阪市以外の市では、その市がお金を出して基準よりクラスの人員を少なくしているところもあります。子どもは地域の宝、将来の希望です。税金は丁寧な教育ができるための基本の少人数学級に使っていただきたいと思います。 現在の小林小学校の規模が小さいとお考えのようですが、通学にも校区の端から平尾小学校までなら子どもの足では歩いて30分近くかかると思います。重いランドセルを背負って、大型車が頻繁に通る大正通を渡り、交通事故の危険も増します。見守り隊の方々も見守れる限界があります。私も小学生の頃、他の区でしたが、小学校まで25分くらいかかり、遠くて本当に辛いと思った6年間でした。子どもたちにいろいろな負担をかけてまで規模の適正化をしなければならないのでしょうか？ もっと地域の子どもの数を増やすにはどうすればいいのか、地域の私たちと一緒に考えてほしいです。このままでは高齢者ばかりの大正区になります。大正区の人口は少なく、高齢者の数は反対に2番目に多いそうです。地域の要の小林小学校をぜひ残してください。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市議会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。 必ずしも少人数による授業や教育活動を否定するものではありませんが、全学年単学級の状況にある小規模校においては、クラス替えができずに人間関係が固定化することや、学校行事等の教育活動にも課題が生じる状況となります。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。 通学距離については、本市では再編後の小学校は原則2 kmまでと定められており、当該校の再編後の校区全域も2 km圏内となる予定です。 通学路の安全対策については、児童が安全・安心に登下校できるよう、再編整備計画策定後に検討会議を立ち上げ、地域、保護者の方のご意見をお聞きしながら、警察や道路管理者である建設局、区役所、教育委員会とで対応を検討します。	12月1日 掲載
23	小林小学校をつぶさないでください。小林地域のもので。小学校は地域の宝です。通学の見守り隊の皆さんも毎日がんばっておられますが、地域の私たちも見守っています。通学する子どもが家の前を通るときは、「行ってらっしゃい」と声をかけ、帰ってくるときは「お帰り」と声をかけています。買い物に出かけた時も交通事故にあわないように見守っています。 生涯学習で小学校の教室をお借りしたり、災害訓練もしています。地震でもし津波が襲った時も近くの小学校が頼りです。他に逃げるところはありません。私たちは小学校に通う子どもたちから、元気をもらっています。 最近は大正区も公園などで大きなイベントがあり、区外の方がたくさん来られますがゴミや騒音の問題があります。イベントは地域の人たちが地域の人や子どものために企画して実施することが大切だと思います。小学校をつぶして、地域から子どもの姿が見えなくなった活気のない高齢者ばかりの町にイベントで人がきてくれるのでしょうか？ 虚しい思いです。本当の町おこしとは言えないと思います。住んでくれる若い人も学校、保育園、病院、そして交通機関がしっかりしていなければ増えないとおもいます。小林地域の要である小林小学校をつぶさないでください。	日ごろから児童の見守り等を行っていただいている地域の方々のご尽力に感謝申し上げます。 小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。 生涯学習の場については、（仮称）跡地活用検討委員会の議論を通じて、地域全体のコミュニティに資する活動拠点等の機能を継続する必要があると認められる場合は、跡地の校舎において継続して利用することも可能です。 学校再編後の地域の避難所については、想定避難者数を収容できる避難所を地域の中でどのように確保していくのかという観点で検討することになります。	12月1日 掲載

24	説明会に参加して感じたのは、まず統廃合ありきで、子どもの気持ちや、地域から小学校がなくなったらどうなるのか、街づくりや防災の観点からも問題あり！だと思いました。行政はもっと想像力を働かせて、区民のための区政がどうあるべきか考えてほしいです。 子どもの人数が減ったとはいえ、全学年で120人もの児童が通う小林小学校です。100人以上の子どもたちがどんな気持ちでいるか…、在籍している子どもたちだけでなく、小林小学校が母校の多くの皆様の気持ちを考えてみてください。 1学級の理想的な人数は15人から25人だそうですから、少子化が問題になっている今、少人数学級を実現させるチャンスだと思います。学校の主人公は子どもたちです！ 子どもの権利条約（第3条の①）は「児童の最善の利益」を謳っています。1994年の5月に日本で発効されて今年30年の記念すべき年に、小林小学校の子どもたちにとって、最悪の「統廃合」は撤回し、小林小学校の「存続」という「最善」の決定をされますよう、お願い致します。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市議会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。 必ずしも少人数による授業や教育活動を否定するものではありませんが、全学年単学級の状況にある小規模校においては、クラス替えができずに人間関係が固定化することや、学校行事等の教育活動にも課題が生じる状況となります。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。	12月1日 掲載
25	7月に開催された小林小学校と平尾小学校の統廃合に関する説明会に参加しました。12月に市民向けの説明会を開催予定だということだったので、それまでに「小林小学校をなくさないで！」の思いを届けようと思っていたところ、知り合いが「何回送っても届かない！」と言うので調べたら、説明会の資料に記載されていた担当部署のFAX番号が間違っていたことがわかりました。 地域から小学校がなくなること容認する人は少ないと思います。「反対！」の気持ちをFAXしようとしても届かないので諦めた人も多いのではないのでしょうか。統廃合反対の意見の前に、意見募集のFAX番号の間違いを、早く区民に知らせるべきだったのではないのでしょうか。そのことも強く抗議したいと思います。	7月に開催した住民説明会において配布いたしました資料19ページのFAX番号が、当区こども・教育担当の電話番号となっておりました。 説明会後に区ホームページへ掲載する際には正しく修正のうえ公開いたしました。その際に当日お配りした資料に誤りがあった旨をお知らせするべきでした。ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。 11月6日に小林小学校及び平尾小学校に対して「ミマモルメ」（学校からの連絡等に活用するスマートフォンアプリ）にて保護者の皆さまにお知らせしていただくよう依頼し、11月8日には区ホームページに掲載しました。また、区広報紙12月号においてもお知らせさせていただきます。	12月1日 掲載
26	小林小学校は大きな運動場があり、子どもものびのび学んでいます。遠くて、運動場も小さい他の小学校に無理無理通わせるのはかわいそうです。なんとか残してください。	小学校の適正規模については、有識者等で構成される「大阪市学校適正配置審議会」の意見具申を受け、市議会等でも議論が積み重ねられた上で定められております。 必ずしも少人数による授業や教育活動を否定するものではありませんが、全学年単学級の状況にある小規模校においては、クラス替えができずに人間関係が固定化することや、学校行事等の教育活動にも課題が生じる状況となります。 本市におきましては、児童の教育環境の確保を最優先に考え、課題の解消を図るためには、学校再編を進めていく必要があると考えております。	12月28日 追加
27	小林小学校で丁寧に学習させてもらって感謝しています。日本全体で子供は少なくなっています。もっと大切にしてほしいです。 少人数の学級や学校はいいなあと思っています。小林小学校をなくさないで下さい。		
28	小林小学校廃止ダメ、残してよ～。私の息子は、小林小学校1期生です!!今も講堂で週1回火曜日に仲間達計11人ぐらいで、毎週練習しています（バドミントン）。小林小学校の前に、めぐみ保育園もあり団地もあり、統合は、やめてほしいです。 令和6年12月2日記		